
「夏のボランティア体験」に参加いただいた、三洋商事株式会社(東葛西)の鹿志村 愛(かしまら あい)さんと下谷 優花(したや ゆうか)さんにお話を伺いました。



鹿志村 愛さん(左)と下谷 優花さん

<会社の紹介>

三洋商事株式会社の経営理念が“地球に「ありがとう」を伝える企業”ということで、産業廃棄物処理を機械に頼らずに人の手(手サイクル)により解体・分別をし、97%以上のリサイクル率を維持しています。環境にも人にも優しいリサイクルを目指しています。

当社は、ボランティア活動の企画・開催や、近隣清掃活動、社内のSDGsプロジェクト推進、環境教育活動などにも力を入れています。学生向けの「SDGsスクール」では、地球環境問題や社会的課題についてお話をする活動を行っており、業界の社会的地位の向上とリサイクルの重要性などもお伝えしています。

<鹿志村 愛さん> - 障がい者施設で体験

私が3日間体験をした「NPO法人えどがわ悠人会 就労継続支援B型事業所 YSG」(西一之江)さんは、障がいがあり一般企業に就職が難しい、または就職に不安がある方が、陶芸・カフェ・内職などの作業を無理のないペースで行える場を提供しています。YSGさんは、生活支援や自立支援を軸に、どのような場面でも利用者さんの声をしっかりと拾い、一人ひとりの意見を大切にしていました。私も体験中に参加した事業所運営に関する定例会議でも、職員と利用者が対等に意見を出し合っていました。このような環境が、利用者さんの自立に繋がっているのだと感じました。

また、体験中は利用者同士の「大丈夫?」「しんどかったら休みなね!」という気遣いの言葉をよく耳にしました。このように支え合える仲間がいることも、自立には必要な要素だと思います。

今回の体験を通して、社会との繋がりが自立支援に繋がっていることを知り、働くことでしか得られないこともあると感じました。私たちも障がいのある方と一緒に働いていますが、改めて学ぶことや気付かされることが多く、視野も広がりが大変勉強になりました。今回の経験を、今後の活動にも活かしていきたいです。



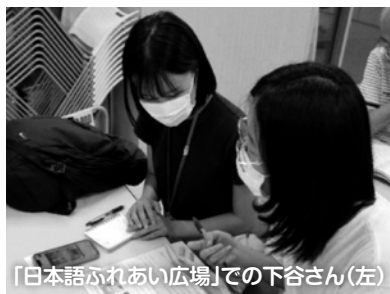
施設で体験中の鹿志村さん(左)

<下谷 優花さん> - 外国人の日本語サークルで体験

私が「日本語ふれあい広場」(船堀)を体験先に選んだ理由は、学生時代の海外ボランティアでの体験を思い出したことがきっかけです。学生時代に所属していたボランティアサークルのメンバーでタイの大学を訪問する機会があり、そこで学生に日本語を教える日本人の先生に出会いました。その先生の影響で、「私も外国の方に日本語を教えてみたい」と興味を持った当時を思い出し、「夏のボランティア体験」にチャレンジしてみようと考え、今回の体験先を決めました。

私が4日間体験をした「日本語ふれあいひろば」の生徒さんは、話せる日本語のレベルにばらつきがありました。

私は日本語学校にも通う中国人の女性と2人1ペアになり、ニュース記事と一緒に読みながら分からない単語の意味などを教えていました。4日間同じ生徒さんを教え、身振り手振りを交えながら和やかな雰囲気が進めることができ、最後には楽しかったとの感想をいただいたことがとても嬉しかったです。



「日本語ふれあい広場」での下谷さん(左)

また、日本語を教えることは文化の違いも把握しなければならず、日本語を真に理解していないと、教えるのは意外にも難しいということを実感しました。

今回の体験を通して、生徒さんとの会話の中で日本との文化や習慣などの違いを多く知ることができました。外国の方に関わらず、人は皆それぞれの文化や価値観を持ち、自分と他者との違いを感じることもあると思います。会社の中だけでなく、今後も様々な人と出会い、接する機会があると思いますが、そんな時に「他者の立場や考えを尊重することの大切さ」を改めて大事にしていきたいと感じました。